

きかえる。「事」を先き（左方は未来）に置きかえること、即ち「延期する」「日延すべし」となる。

演劇 手甲を前に向けた左手の拳を頭の左横にかざし、右手も拳にして（手甲は上向け）その腕の肘を右へ張る。そして、左手の拳をくると廻わして手甲を後向けに、同時に右手の拳を前斜めに突き出す。歌舞伎俳優が舞台上で見得を切る形式から来た手まね。

演習 拳にした両手で胸板を同時に二三度打つ。相撲取りが兄弟子の胸板にぶつかって行く稽古を表わしたものか。或は、拳で胸板を打つのは、技術を「胸にしまい込む」と云う意味か。「稽古」「練習」と同じ。

援助 指頭を上にした親指の右手を、五指の指頭を上にしたし掌を前に向けた左手で前に押し出すような運動を二、三度繰返す。人物（右手親指）を後押しをすること。「後援」



「応援」の手まねともなる。
演説 「政治」と同じ手まね。政治と演説の不可分な関係から、この両者を

同じ手まねで表わすものか。

縁談 結婚—相談。

延長 五指の指頭を集め合わせた両手を左右に互の指頭でつけ合わせて、紐をつまんで引き出し右手で紐を伸ばすような身振り。

煙突 五指をまるく屈めた両手を上下にして円筒の形をつくり、次に何れかの手を煙として一方の手（円筒様に五指を屈めたまま）下から中をくぐらせて上に出し、五指を開いて横へ流して行く。

遠足 五指の指頭を上にしたし掌を左に向け

た右手。これも五指の指頭を上になしし掌を左に向けた右手。この両手を前後にならべて、人が一列にならんだ形を表わし、そのまま前へ進ませる。人が列をつくって行進する様遠慮する。「案じる」「憂れい」と同じ手まね。但し、夫々の意味にそう表情で區別する。

鉛筆 右手の人差指と親指で、物を持つように指頭を合わせ、それを口もとに持って行き、次に下に戻して字を書く真似をする。鉛筆の先をなめることによって鉛筆を表わした手まね。

オ

甥 兄(弟) 姉(妹) V 息子。兄弟姉妹の何れかの手まねをして生れる男性(中指)

おいしい 「うまい」の(一)と同じ。

王 指頭を上にしたした親指の右手(男性)を左の掌の上に載せ、眼の上になしし上げる。

「天皇」「皇帝」ともなる。

応援 「援助」と同じ手まね。

大方 掌を下に向け五指の指頭を前方直角になしした両手を左右につけ合わせ(両手の親指がつく)てから、両手を左右に離して何れも下へ弧を描いて降して行き(自然に両手の掌が上向きになる)再び下で両手がつけ合う(両手の小指がつく)、以上は、「凡て」「一切」「みんな」の手まねになるが、「大方」とするには両手が下方で合わせる手前で少しの間隔を置いて停止させる。「凡て」では両の手で一つの完全な円を描くが「大方」は、一部が欠けた不完全な円となる。つまり、もう少しで完全な円となる即ち凡てでなく「大方」なのである。

扇 五指の指頭を上になしし掌を内側にした